

生浜地域誌

第58号

21.9.30

発行
NPO法人ちば・生浜歴史調査会
電話
080-5387-2592

行事開催中止☆☆☆

政府の緊急事態宣言の発令を受けまして12月末までの本会主催の行事はすべて開催を中止させていただく事に致します。

ただし、旧生浜町役場は従来通りの開館を継続中です。また、本会の活動も制限の許す範囲で継続中でありませす。
△火木土 9時より16時半 開館中△

コロナで住民の、にぎわいとつながりが、

失われませんように

「生浜の疑問に答える」

生まれて今までずっと生浜に住んでいる方、最近生浜に引っ越されてきた方、職場が生浜にあつて通勤している方、高校大学に通学の方、等々
多くの、様々の方が暮らしている生浜地区のことについてお知りになりたい事がありまして、旧生浜町役場にお立ち寄りください。
「どうしてこれがあるの？」

地域の過去現在未来を結ぶ活動を通し、豊かな毎日を過ごしましょう!!!

住んでいる生浜を知ろう。《この地域を生浜地区と申します》

「生浜町」という町名は、今は存在しませんが生浜小学校・生浜中学校・生浜高等学校という名称にある通り地域を示す地域名としては残っております。

現在は千葉市中央区内の5つの町をさします。それは生(おゆ)実(み)町(ちょう)・南生(みなみおゆ)実(み)町(ちょう)・浜野町・村田町・塩田町です。明治以来制度の改正のたびに町名は変わってきました。

★明治22年(1889年)4月1日、「生(おゆ)実(み)浜野村(はまのむら)」が誕生しました。

北生実・南生実・有吉・浜野・村田の5つの村が合併したのです。

★役場は北生実にありましたが明治40年(1907年)浜野へ移転しました。

★「生実浜野村」が次に「生(おい)浜村(はまむら)」となった。

生実と浜野の頭文字だけに改称し、「生浜村(おい)はまむら」となりました。

生実浜野村 → 生浜村 ……大正14年(1925年)1月1日です。

★次に村から町になった。

「生浜村」から「生浜町(おい)はままち」となりました。

生浜村 → 生浜町 ……昭和3年(1928年)11月10日です。

★その後4年ほどして現在の「生浜町役場」庁舎が完成しましたのが昭和7年(1932年)です。

★昭和30年までは「千葉県千葉郡生浜町」で、千葉郡には町や村がいくつかありました。

「なぜこんなことをするの？」「いつから始まったの？」というような

疑問にお答えできるかもしれません。



★昭和30年（1955年）2月11日、千葉市との合併により、「生浜町役場」は千葉市の「生浜支所」となります。その後平成4年（1992年）3月まで使用されていました。

★現在（令和3年現在）「生浜支所」は「生浜地区市民センター」となり、生浜小学校の向かいに移転しています。

★「生浜町役場」の建物は補修工事が施され、平成6年（1994）千葉市指定文化財（建造物）に指定され「旧生浜町役場庁舎」と言います。

そして一般公開（無料）されています。…火木土曜日 9:00～16:30

＊＊「塩田町」が独立町名になったのは千葉市の合併後の昭和30年4月1日です。それまでは、生実新田や塩田周辺を「生（おゆ）実（み）二区（にく）」と称していました。

＊＊有吉町は千葉市が政令指定都市となった平成4年（1992年）4月1日から緑区区役所管轄となりました。

コロナで住民の、にぎわいとつながりが、失われませんように！！！！

「1. 生浜地域の町名について」

私たちにそれぞれ名前があるように、私たちの住んでいる土地にもそれぞれ名前がついています。それは、有吉・南生実・生実・塩田・浜野・村田です。

●有吉は荒子（アリン）といい、荒れた土地という意味を持っている。

荒子…荒石…有吉…有吉町となった。

●南生実・生実はもとひとつの村であり、麻績連（おみのむらじ）に関係があり、これが以下の3つの町となった。

補足…「麻績連（おみのむらじ）」とは、古代に麻の生産でこの地を支配した豪族

麻績（おみ）…小弓（おゆみ）…御弓・北大弓…大弓・小弓…南生実…南生実町

…北生実…生実町

「生実二区」…塩田町

◆塩田は北生実から分かれ、昔は「志本多」と書き、潮田…塩田、なったが塩作りには関係ないようである。

●浜野は麻の特産地であったのか、麻麻（はま）と書き、

麻麻…浜…浜野駅（はまのうまや）…浜野…浜野町 となった。

補足…古書によると「人皇十二代景行天皇の御宇、日本武命（尊）の御東征の時、麻州（はのくに）石握（いしつか）の御影郷に御下向す」とある。

・御宇（ぎょう）とは《宇内（うだい）を御する意》帝王が天下を治めている期間。御代（みよ）のこと。

・石握は八幡町の旧名。

・麻州の麻が「はま」に訛り。その後「浜」の字があてられたようである。

〈千葉市の町名考〉より

●村田は田圃(たんぼ)の多いところより、群がる田、群田となり、後に村田となる。もとは上総国に属していたが元和元年(1615)下総国千葉郡に編入した。(編入前は、上総国市原郡に属していたという記録がある)

補足…昭和30年4月1日に村田町を設定する。〈千葉県報〉より

補足…椎名村 → 千葉市(昭和30年2月11日)

補足…茂呂「茂呂町」は天正3年に創立。千葉氏の治下にあった時から椎名郷と名付け、上郷・下郷の2部に分けられた。後の徳川時代になって、古市場を分立し、3部に分かれた。

補足…刈田子「刈田子町」 菊麻郷。千葉庄椎名郷。昭和30年4月1日。

補足…古市場「古市場町」 菊麻郷。千葉庄椎名郷。昭和30年4月1日。

補足…富岡「富岡町」 上郷。千葉庄椎名郷。昭和30年4月1日。

補足…中西「中西街」 上郷。千葉庄椎名郷。昭和30年4月1日。

補足…落井「落井町」 上郷。千葉庄椎名郷。昭和30年4月1日。

〈千葉県地名変遷総覧〉より

「2. 字名(あざな)」補足…「字名」とは「市区町村名の後につく地域名称で、番地の前の部分」を指します。また、番地の前に着くのは大字で、村に近い小字という村の中を区分した地名もあります。

前に書いた町名が私たちの姓とすれば字名は名に相当するでしょう。昔の住人と密接な関係があり、郷土を知るには重要な名前の一つです。

○浜野町にあった字名

百亀喜(どうみき) — この字名は南生実町にもあり、百(どう) = 豊 みき = 酒を意味し酒造りに関係のあったところである。

東雷(ひがしいかづち) — 雷は五十土とも書き、荒れた土地のことである。生浜小学校はこの地にある。

補足…旧生浜町役場庁舎のそばの踏切は「西雷(にしいかづち)踏切」と名付けられています。ちなみに生実五差路のそばにある小さな橋は「五十土橋」「いかづちばし」と名標が付いています。また、南生実の字名に「五十土」いかづち…荒れ地の開墾地。(妖怪のいるところの意味)という記録もある。〈「郷土の歩み」16頁〉

○村田町にあった字名

浜本(はんと) — 浜野町にも塩田町にもあり船着き場のことである。

服部(はっとり) — 機織部(はちおりべ)のすんでいたところか。

○塩田町にあった字名

新作(しんさく) — 新しい所という意味。天満宮はこの地にある。

油天(あぶらてん) — 天は田の意、社寺の燈明料の田で免祖田

補足…「免祖田」とは田に課せられた租税が免除された田圃

○生実町にあった字名

ネコヤ — 根古ヤと書き武士の居住していたところ。

帝鑑(ていかん) — 帝 = て = 土堤、鑑 = がけ、山の一部がくずれたがけ。

○南生実町にあった字名

市道(いちみち) — 市場(古市場)へ行く道。市とは物々交換するところ。

御手洗(みたらし) — 神社の入り口にあり手や口を清めるところ。

峠ノ台(びょうだい) — 村境・みねの台・高台で境のあったところ。

大百池(おうどいけ) — 麻の茎を水にひたしたところ。麻潤池。

○有吉町にあった字名

志保田(しばた) — 有吉城の周辺施設。人工によって「しばた」ところ。

泉田(いずみだ) — 清水の湧いている田。